

令和5年度森川特別支援学校 児童生徒アンケート考察

- ・教職員は精神疾患の生徒が学校を安全な居場所としてくれるように学校生活を工夫すること必要で、そのためには生徒の実態や障害の特性を理解すること、生徒の声に耳を傾けることが不可欠である。
- ・登校が安定できていない生徒に関しては、先生でなくてもスクールカウンセラーや図書司書、養護教諭等がいるので、先生意外にもいろいろな話しができるようにその機会を作ったりすることが必要である。
- ・昨年度はいじめがあるとの回答があったため、人権委員会を開催し、生徒への再度のアンケートの実施、意見箱の設置、人権教育の実施、以後の対応として、学期一回のアンケートの実施をおこなっている。生徒同士で気になる場面があれば、職員も即注意するように心がけている。
- ・教職員は、これまでも児童生徒の実態に配慮し検討を重ね、工夫改善を図ってきたが、今後も実態に応じた授業実践、参加の仕方を工夫していく必要がある。

令和5年度県立森川特別支援学校保護者アンケート考察

生徒の登校が安定しないなかでのアンケートのご協力いただいて誠にありがたいことである。全体的に見て、児童生徒の授業や学校教育に対して高い評価となっている。これは、日頃から保護者との連携に努めて生徒を教職員の姿勢によるものと考えられる。これからさらに教育活動について、その目標と学習活動や内容・評価の関連を意識し保護者に伝えて周知を図り、連携して取組めるよう働きかけたい。

本校は、来年度創立40周年の控えPTA活動の活性化や琉大病院移転に伴う引越作業での病院や関係機関との連携等、取組をチーム学校として取り組んでいく必要がある。